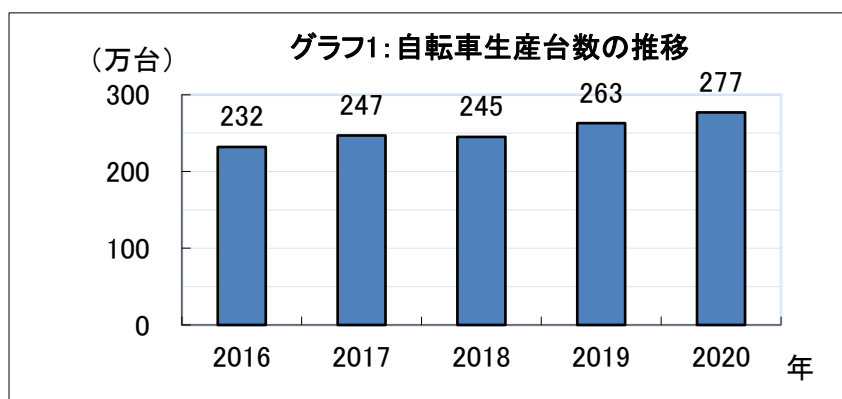


イタリア自転車市況－2020

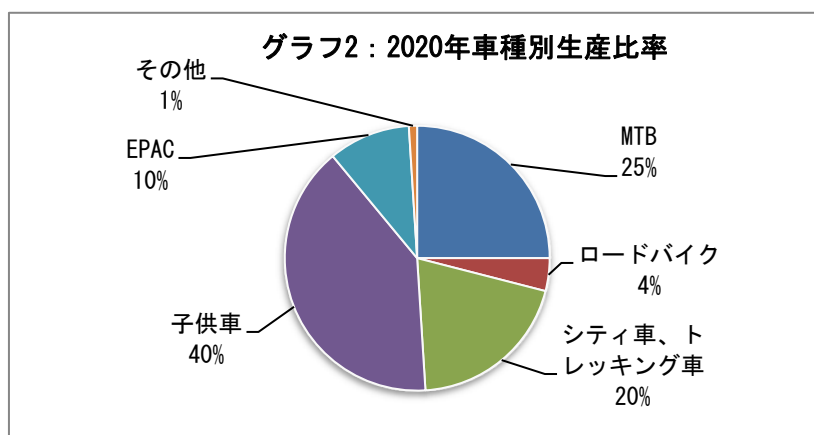
1. 生産

イタリア自転車工業会(ANCMA)によると、電動アシスト自転車(以下「EPAC」という)を除く一般の自転車(以下「自転車」という)の2020年の生産台数は前年比5.3%増の277万台となり、2019年に2014年以來250万台の大台を回復後、さらに伸び280万台弱となった。

車種別の生産台数比率は、子供車(幼児車含む)が前年同様40%と最大である。ロードバイクが前年より2ポイント減の4%、シティ車・トレッキング車が1ポイント減の20%となったが、マウンテンバイク(MTB)は前年より3ポイント増の25%、EPACは前年より5ポイント増の10%と倍増となった。



※上記数値は EPAC を除く

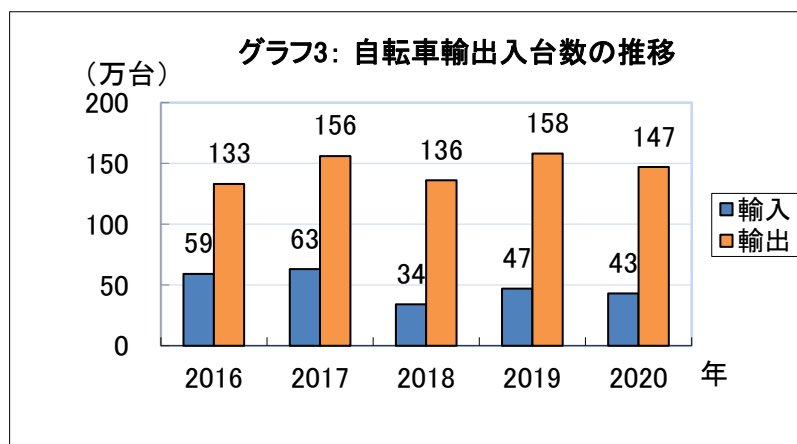


2. 輸出入

2020年の自転車輸出台数は前年比7.0%減の147万台となった。国別輸出先の上位5カ国は前年と変わりなく、フランス向けが60.3万台と依然最大であるが、台数は前年より減少した。次いでスペイン23.1万台、ドイツ17万台、ベルギー11.7万台、ポーランド10.1万台となっている。その他の国々を見ても輸出先の殆どは欧州向けである。

2020年の自転車輸入台数は前年比8.5%減の43万台となった。国別輸入元は、前年同様ポルトガルからの輸入が10.5万台で最大となった。次いでルーマニア7.4万台、オランダ3.4万台、中国2.6万台、ドイツ2.1万台となった。一方、前年2位であったスリランカは圏外となった。輸入の8割弱は欧州から、アジア地域からは1割強である。

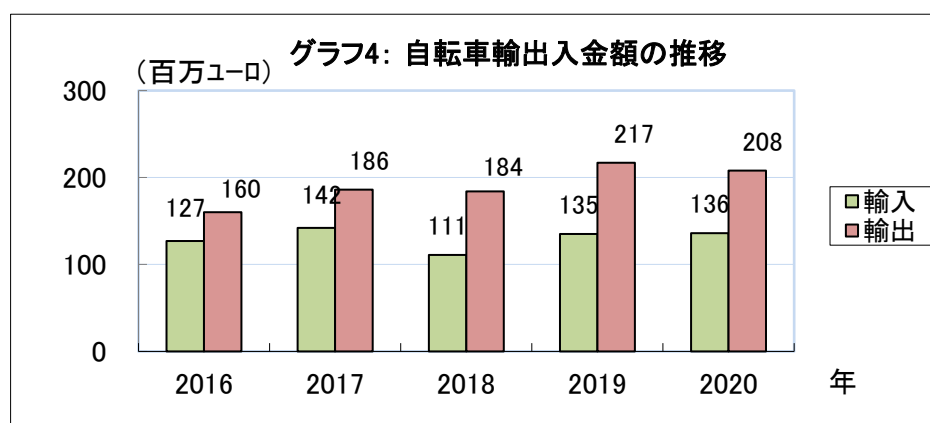
また、2020年の自転車輸出金額は前年比4.1%減の208百万ユーロ(270億円「換算レート1ユーロ=130円」以下同じ)となり、同輸入金額は同比0.7%増の136百万ユーロ(177億円)であった。



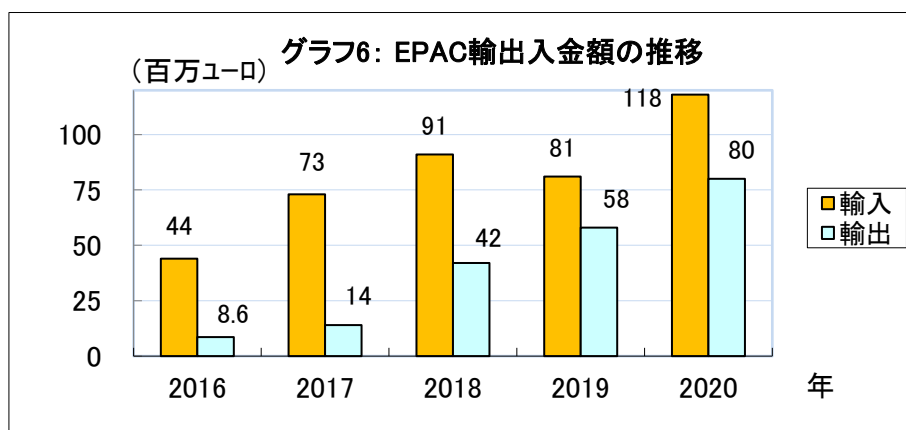
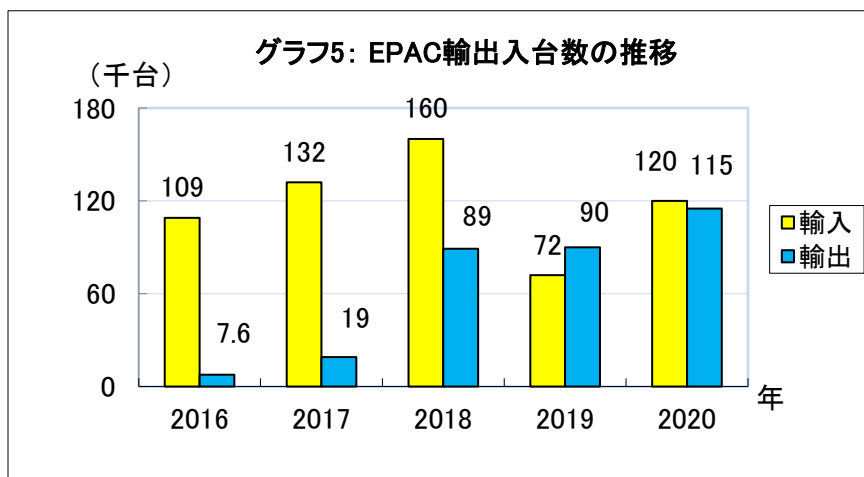
※上記数値はEPACを除く

表1: 2020年自転車輸出入台数上位5カ国

順位	輸入			輸出		
	国名	台数(万台)	%	国名	台数(万台)	%
1	ポルトガル	10.5	24.5	フランス	60.3	41.1
2	ルーマニア	7.4	17.3	スペイン	23.1	15.8
3	オランダ	3.4	7.9	ドイツ	17.0	11.6
4	中国	2.6	6.1	ベルギー	11.7	8.0
5	ドイツ	2.1	5.0	ポーランド	10.1	6.9
		42.9	100%		146.8	100%



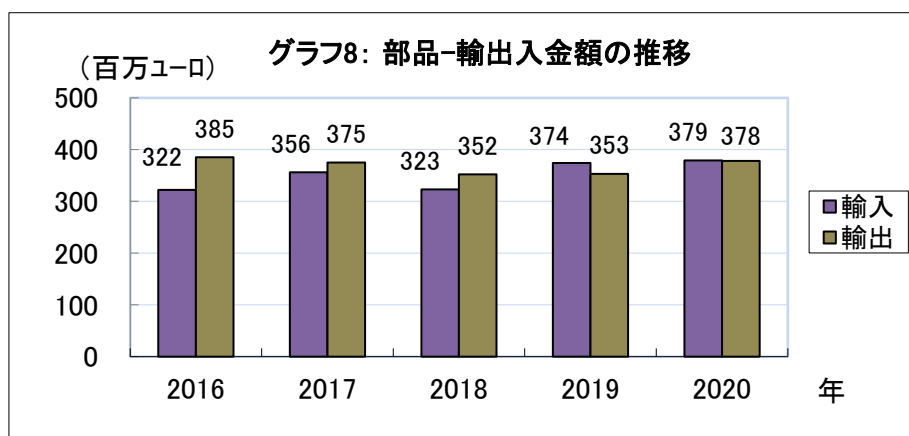
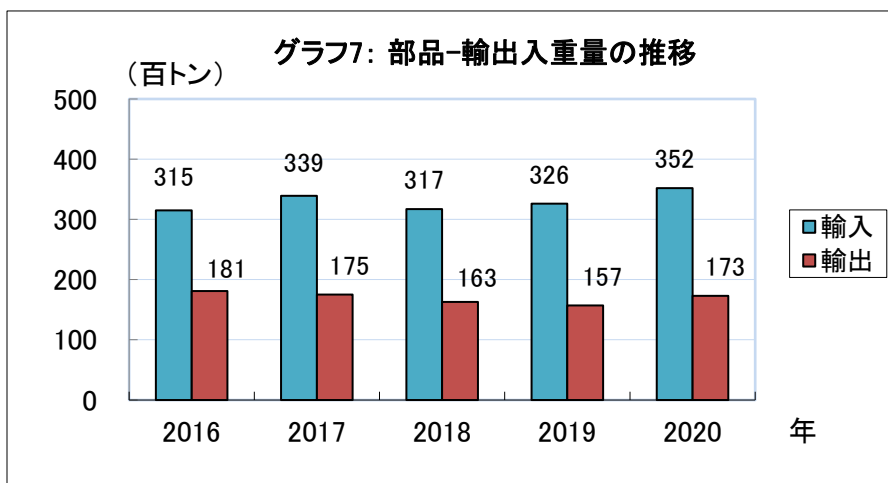
2020年のEPAC輸出台数は前年比27.8%増の115千台で、同輸入台数は同比66.7%増の120千台となった。また、EPACの輸出入金額で見ると、輸出金額は前年比37.9%増の80百万ユーロ(104億円)、輸入金額は同比45.7%増の118百万ユーロ(153億円)と、輸出入ともに大幅増となっている。



2020年の自転車輸出単価は前年より3ユーロ高い141ユーロ(18,330円)、同輸入単価は28ユーロ高い316ユーロ(41,080円)と輸出入ともに上がった。EPAC輸出単価は前年より52ユーロ高い696ユーロ(90,480円)に上がったが、同輸入単価は前年より142ユーロ安い983ユーロ(127,790円)に下がっている。

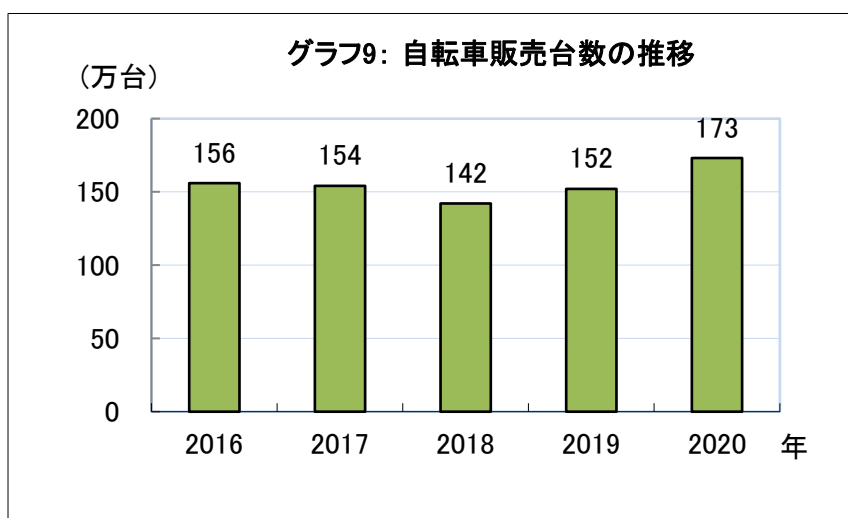
2020年の自転車部品輸出入について、重量ベースで見ると輸出重量は前年比10.2%増の173百トンで、輸入重量は同比8.0%増の352百トンであった。金額ベースで見ると輸出金額は前年比7.1%増の378百万ユーロ(491億円)、輸入金額は同比1.3%増の379百万ユーロ(493億円)となった。

さらに地域別に金額ベースで見ると、輸出の8割弱が欧州向け、北米向け1割未満、その他が1割強程度である。輸入は欧州から3割、中国3割、台湾2割、日本が1割弱である。



3. 販売

2020年の自転車販売台数は前年比13.8%増の173万台となった。ここ数年大幅な伸びをみせるEPAC販売台数は前年比43.6%増の280千台と大幅に増加した。自転車とEPACを合わせた全体では201万台で前年比17.3%増の販売台数となった。

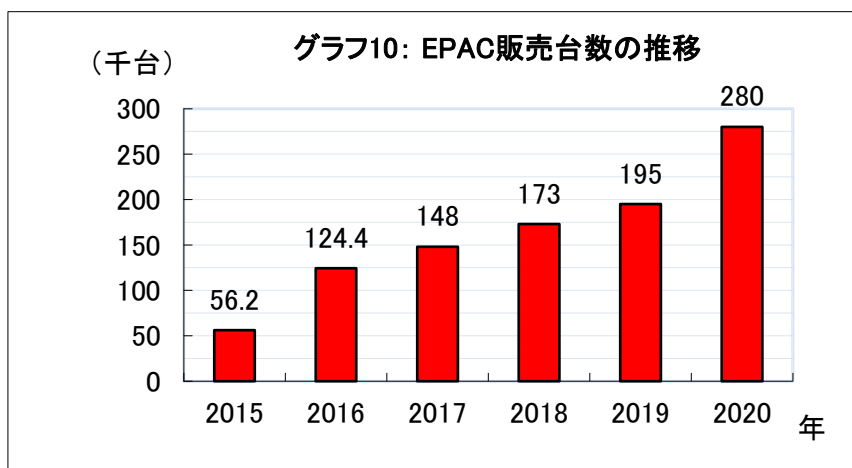


※上記数値はEPACを除く

2020年イタリアのEPACを含む自転車販売台数が200万台を超えたことについてANCMAは、1990年代前半のマウンテンバイクブームがイタリアでの自転車普及に大きく貢献したが、あれからおよそ30年を経て、2020年はパンデミックで非常に厳しい年でありながらも、自転車販売台数は再び200万台の壁を突破したとしている。

ANCMAは2020年は記録的な年でもあったとし、自転車販売に対しEPACの販売が堅調で、しかもこの台数はCovid-19の蔓延によって著しく際立った数か月間に販売された合計数だとしている。この販売増について、この自転車ブームはCovid-19の蔓延が人との距離を置く必要性から、都市環境だけでなく、自由と幸福への欲求において持続可能であるとし、ここ数年プラス成長傾向にあった自転車需要をイタリア政府による自転車購入費補助というモビリティボーナスの導入が大きく貢献したとしている。

さらにANCMAは、EPACの販売台数がこの5年間で年間5万台強から2020年には28万台と実に5倍になり、EPAC市場は常に成長し、今後もEPAC需要は拡大し、業界のさらなる発展に繋がるとの見通しを立てており、イタリアでは専門店での購入割合が高く、2020年は自転車販売額20億ユーロの7割以上の売り上げが専門店にもたらされたとしている。



以上

統計出所：ANCMA